

<全体分析>

試験時間 120分

<p>解答形式 論述形式 (一部記述を含む)</p> <p>分量・難易(前年比較) 分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化) 分量は大問3題「400字×3題」で例年通り。難易度は変化なし。</p> <p>出題の特徴や昨年度との変更点 内容面では、Iは2025年度が古代・中世範囲であったが、本年度は中世範囲(一部近世初頭を含む)であり、従来の近世からの出題を中心とした傾向に変化が見られつつある。II・IIIは2025年度が近代範囲であったが、本年度はIIが近代範囲で、IIIは近代・現代範囲であり、IIIは歴史総合・世界史探究のIIIと共通の問題であった。形式面では、2025年度はI・II・IIIが資料利用型で、本年度はIが資料利用型でIIIが資料・グラフ利用型であった。近年は資料利用型の出題が多くなっている。</p> <p>その他トピックス I問4は、2025年度夏期講習『一橋大日本史』第2講[2]で同様の内容を扱った。II問4は、2025年度冬期講習『一橋大日本史』第3講[1]・第5講[2]や2025年度直前講習『一橋大日本史テスト』第2講[2]において、関連する内容を扱った。</p>

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述 論述	中世～近世初頭の 仏教 《資料》	問2の法然の思想や、問4の蓮如の布教や寺内町は基本事項だが、資料1「一枚起請文」や資料2「御文」の内容も参照して解答をまとめたい。問3は指定語句に注目し、武家政権との関係を軸に臨済宗の動向を説明する。問5で問われた「千僧供養」は難度が非常に高く、設問の「(秀吉期に)中世的な仏教体制は大きく変化する」という文章から解答の方向性を推定するのも困難であった。	標準
II	記述 論述	銀行のドル買い と金本位制の展 開	問1の1930年代に発生したテロ活動は一橋大で頻出。問3は昭和恐慌時の「ドル買い」について、「為替相場の変化をふまえて」という設問の付帯条件に従い説明する。問4は、①③は国際金本位制への参加、②④は国際金本位制からの離脱について、それぞれの「目的」が問われているが、①～④の時代状況にも視野を広げながら説明する必要があった。	標準
III	論述	第1次石油危機 に至る背景と経 済・エネルギー への影響 《資料・グラフ》	世界史との共通問題として、歴史総合も学んだ日本史受験者が想定しうる解答例を示した。問1は、「契機」となった第4次中東戦争の「背景」を「第一次世界大戦の終結までさかのぼって」説明する際、歴史総合の学習の深度で差がついたであろう。問2は、第1次石油危機の「日本の経済とエネルギーをめぐる環境」への「影響」を想起するのは難しくないが、一次エネルギー供給量の推移のグラフを読みとって説明したい。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

<p>日本史の理解を前提に、資料の精読や解答の的確な構成が要求されるなど、一橋大学の日本史は難度が高い。特定のテーマが出題されやすいので、過去問の研究は不可欠である。前近代では、社会経済史に加えて法制史が中心の政治史や、政治・社会状況との関連を含めた文化史の出題が見られる。近現代では、明治・大正期における寄生地主制や資本主義の発達、15年戦争～戦後期の政治・外交・経済などを軸に、社会史の出題も増えている。これらのテーマを深めるとともに、歴史総合の分野における世界史の知識の習得にも積極的に取り組んでいこう。</p>
